

**【SC-4 CQ の設定 記入例】** (実際には CQ の数だけ作成する)

スコープで取り上げた重要臨床課題 (key clinical issues)				
<p>重要臨床課題 2:</p> <p>診断、検査に基づいて急性虫垂炎である可能性が高まった段階で、治療の方針について決定する必要がある。現在、急性虫垂炎の治療法についてのゴールドスタンダードは外科治療とされている。外科治療には開腹手術と腹腔鏡下手術とがあるが、程度の差はあるものの虫垂を切除するために必然的に身体への侵襲を伴うことになる。そのため、急性虫垂炎の治療については、身体への侵襲のない抗菌薬投与も選択肢のひとつとして考慮されている。どちらの治療法が推奨されるかについて明確になれば、臨床決断の大きな助けとなることが期待される。</p>				
CQ の構成要素				
P (Patients, Problem, Population)				
性別	( 指定なし ・ 男性 ・ 女性 )			
年齢	( 指定なし ・ 18 歳以上の成人 )			
疾患・病態	急性虫垂炎で穿孔、膿瘍形成などの合併症を伴わないもの			
地理的要件	医療体制の確立した地域			
その他	特になし			
I (Interventions)		C (Comparisons, Controls, Comparators)		
抗菌薬投与による保存的治療		外科的虫垂切除 (開腹術および腹腔鏡下手術は問わない)		
O (Outcomes) のリスト				
	Outcome の内容	益か害か	重要度	採用可否
O <sub>1</sub>	虫垂炎の再発 (1 年間)	( 益 ・ 害 )	9 点	○
O <sub>2</sub>	虫垂切除術 (治療開始 1 ヶ月以内)	( 益 ・ 害 )	8 点	○
O <sub>3</sub>	主要な合併症 (1 年間: 外科的治療, 内視鏡的治療, IVR 治療を要するような合併症, 臓器不全, 死亡, 深部感染, 腹壁癒着ヘルニア, 癒着性腸管閉塞)	( 益 ・ 害 )	8 点	○
O <sub>4</sub>	その他の合併症 (1 年間: 表在性創傷感染, 下痢, 腹部不快感など)	( 益 ・ 害 )	5 点	○
O <sub>5</sub>	入院期間	( 益 ・ 害 )	7 点	○
O <sub>6</sub>	病休期間	( 益 ・ 害 )	6 点	○
O <sub>7</sub>	炎症反応 (CRP 値)	( 益 ・ 害 )	3 点	×
O <sub>8</sub>		( 益 ・ 害 )	_____点	
O <sub>9</sub>		( 益 ・ 害 )	_____点	
O <sub>10</sub>		( 益 ・ 害 )	_____点	
作成した CQ				
成人の急性虫垂炎において抗菌薬投与による保存的治療は、外科的虫垂切除術と比べ推奨できるか?				